

戦地からの手紙で戦争を読む

文学部・新井ゼミ NHKテレビに出演

戦後65年目の夏。アジア・太平洋戦争下での軍事郵便を読み解き、戦争を考える実習に取り組んでいる文学部(人文学科歴史学専攻)の新井勝敏ゼミ(37人、西浦賢勇ゼミ長・3年次)のメンバーは、報道番組など2本のテレビ番組に出演。授業の様子や手紙を朗読する姿が紹介された。死に向き合う戦場で書かれた手紙から、現代の若者たちは何を感じたのか——大きな反響を呼びそうだ。

番組はいずれもNHK。ちと変わらない若者の素直な状況にありながら、8月3日放映の報道「顔が見えませんでした」(伴野ら家族を思いやる兵士た番組「クローズアップ現さん」)。番組ではその手紙の優しさや切なさが強代の特集「戦地からの手紙」で紹介された。

「クローズアップ現さん」に出演した手紙(遺書) 研究している。新井ゼミ代は、生田キャンパスを読み上げた。では2002年からグル

同ゼミは3月にもNHKのテレビニュース「おがとらえた戦争がリアルに記され、貴重な事実が活動が紹介された。放映後は新井教授のもとに「うちにも軍事郵便が残っているのでは」と新井教授は解説する。

65年の年月が経ち、日本人の多くが戦争を身近に感じる機会はほとんどなくなった。特に若い世代は、戦争には教科書など過去の記述でのみ接するだけで、軍事郵便はかけがえのない資料だ。

家族宛てやラブレター

「兵士に“人間”感じた」

寄せられた。

「ケータイ世に合宿。後期になると、南方に赴いた兵士と内地の家族との間による珍しい「往復書簡」の解説を進める。

「帝国軍人と呼ばれた兵士たちに“人間”を感じた」と、(伴野さん)。

「戦地で見慣れない達筆の崩し字や変体仮名に苦勞しながら、マスコミなどで頻ら、薄茶に変色した手紙と向き合う学生たちの熱い夏が続く。



▲「クローズアップ現代」撮影中のゼミ授業の様子。中央が新井教授



▲特集番組「戦地からの手紙」で撮影に臨む新井ゼミ生(8月15日放映予定)



▲封書や絵はがきも…「軍事郵便」のスタンプが押された郵便の数々

軍事郵便 戦時中、出征中の兵士や軍属など本国人との間で交わされた郵便物(私信)。表には「軍事郵便」「検閲済み」のスタンプが押された。

Clean town 2010 in Kanda

神田学生自治会・二部学生会の発案

神田キャンパス周辺道路を清掃

「日ごろお世話になってる神田キャンパス周辺の道路を自分たちの手できれいにしたい」と、神田学生自治会・二部学生会の発案で清掃活動「Clean town 2010 in Kanda」が7月31日、初めて行われた。



あいつする神田警察署・中原隆副署長

炎天下、そろいのTシャツを着た学生有志約80人と協力の出がかった神田警察署員1人が「神保町駅〜神田キャンパス」

「水道橋駅〜神田キャンパス」の3班に分かれて、たばこの吸い殻やペットボトル容器、空き缶などを拾った。

集めたゴミは、90リットルの袋約10袋。小さいながらも「地域貢献」を果たした学生たちは達成感を感じた様子で、それぞれの班の結果を報告し合っていた。



「暑い中気をつけて活動を」と呼びかける阿藤学生部長



出発前に記念撮影「協力して、きれいにしよう！」



▲九段下方面担当のチーム

今回の活動は東京メトロポリタンテレビの取材を受け、「TOKYO MX NEWS」で放映された。

学生とともに参加した阿藤正道学生部長は「暑い中、多くの学生が集まり、楽しみながら活動してくれた。キャンパス周辺を知る良い機会にもなったと思う」と話した。岸宏美さん、坂井里衣さん(ともに法

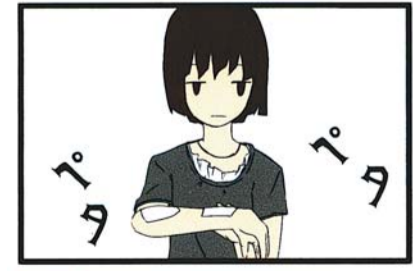
3)は「歩行喫煙禁止などの吸い殻が多く、驚いた。普段から周りに呼びかけるなどして、きれいな街並みを心がけたい」と話した。



▲古書店街方面を担当したチーム

漫画研究同好会

スキンシップ



夏期休暇中のゼミナール 活動情報

▽商学部・渡辺達朗ゼミ

同ゼミは東京商工会議所主催の「学生まちづくりプレゼンテーション大会」に毎年参加している。今年は、世田谷のまちづくり提案に取り組みしており、8月に実施するフィールドワークの結果をもとにした調査研究の中間発表を9月13日から15日まで山梨県山中湖村平野で行う。

▽商学部・植田敦紀ゼミ

「環境会計の構築と展開―サステナビリティ社会のための会計―」を研究する同ゼミは、9月16、17の両日、「特別保護区」上高地の自然体感と生物多様性問題への導」をテーマに長野県上高地でフィールドワークを行い、生物多様性について考える。

図書館本館・生田分館で オープンライブラリー



中学生、高校生、大学受験生を対象に生田キャンパスの図書館を開放しています。詳細はホームページで。